横浜市立万騎が原中学校　学校だより

# 桐の花

令和３年
３月２２日

校 長　中 村　雅 一
横浜市旭区万騎が原 31　TEL 045-391-5514　FAX 045-391-5537
URL http://www.edu.残り city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm

『卒業おめでとう』　　校長　中村　雅一

３月 11 日、３年生は、名残惜しい気持ちを持ちながらも、新たなステージに向かって出発しました。この一年間は、様々な行事や部活動の大会・コンクールが中止・縮小されるなど、思うようにならない日々が続きましたが、３年生はそんな中でも下を向くことなく、前向きな学校生活を送り、最上級生としての立派な姿を見せてくれました。この日、３年生への感謝の思いを伝えた在校生代表、山田優月（２年２組）さんの「送る言葉」、３年間の思い出を振り返り、親への感謝の思いを伝えた卒業生代表、伊倉寛（３年１組）さんの「お別れの言葉」、さらには、保護者、先生たちの胸を打つ感動の歌声を聞かせてくれた「卒業生合唱」、今年も温かい気持ちにあふれた素晴らしい感動の式となりました。

では、今年も卒業式の校長式辞を掲載させていただき、今年度の「桐の花」の最終号といたします。
来年度もまた引き続き、万騎が原中学校、万騎中生たちへのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

**柔らかな陽ざしに　春の訪れを感じる頃となりました。**
**「万騎が原中学校　第６０期 卒業生」として巣立つ　２９８名の皆さん、卒業、おめでとうございます。**
**また、本日は、新型ウイルスの感染拡大防止に努める中での式とはなりますが、何よりも　無事に卒業式ができること、大変うれしく思います。**
**さて、卒業生の皆さん、心も体も健康なとき、それは　明日の生活が当たり前にある状態です。**
**１年後も 10 年後も、将来が当たり前にある。それが「日常」です。そんな当たり前のことを私たちは普段、ありがたがったり、感謝したりはしないものです。**
**反対の「非日常」。 それは、たとえば、今日がその日です。中学校生活、最後の卒業の日です。卒業の日が刻々と近づく日々も、「非日常」となっていきます。**
**この「非日常」がもっとも、心に強く感じ、身につまされるのが、「命」にかかわる場合です。**
**今からちょうど 10 年前、2011 年 3 月 11 日の「東日本大震災」、その直後の「福島第一原子力発電所の事故」は多くの人々の、これまでそこにあった「日常」を大きく変えてしまう出来事となりました。**
**私たちは、身近な人や大切な人の死によって、また、生まれ育った土地を離れなくてはならないことによって、これまでの当たり前にあった日常が、「実は、すごく幸せな時間だったんだ」ということを、実感させられます。しかも、痛みをともなってです。**
**今、再び、新型コロナウイルスのまん延によって、世の中が大きく変わりつつあります。１００年に一度の危機の中に、私たちはいるのです。テレビは連日、「今日の新規感染者は何人」とか、「死亡者が何人」と報じています。その報じられる数字は、確かに「事実」を表しているのですが、数字にとらわれると、かえって、実際に起きている本当の事実が見えにくくなります。**
**解剖学者の養老孟司さんは、日常で考えるべき死は、「二人称の死」と言っています。**
**どういうことかと言うと・・・**
**「一人称の死」、つまり「自分の死」は、死んだら意識がなくなるから考えることはできません。**
**「三人称の死」は、「彼や彼女らの死」ですが、今も世界中のいたる所で、飢えや紛争などが起きていて、そうした「彼や、彼女らの死」をすべて考えていたら日常生活は送れません。**
**しかし、「二人称の死」、つまり「自分の親や子供、兄弟、家族、親しい友人」など、身近な「あなたの死」は、自分の心に深い傷を負います。私たちがまず考えるべき死は、この二人称の「あなたの死」なのだと思います。**
**・・・ですから、生徒の皆さん、自分の命は、「あなたを大切に思う人の命」でもあります。**
**これから先、進んで行く中で、どんなにつらく大変なことがあろうとも、あなたの命は、あなた一人のものではない。**
**もし、あなたが傷つけようとする命があるなら、それがあなた自身の命であっても、他人の命であっても、その命はあなた一人のもの、その人一人のものではない、ということを忘れないでください。**

**そして、自分の命も、人の命も、大切にしていってほしいです。「大切に」とは、この与えられた命を生かして、「社会のために自分は何ができるか」を問い続けていってほしい、ということです。**

**その基準は、やはり「自分が何をしたいか」という「自分への問い」なのだと思います。「自分は最終的に何になりたいのか」という「問い」です。**

**「目標」は、自分自身のためにあります。自分の人生を生きるためにあるのであって、誰かに求められた目標であってはなりません。多くの人が疑うことなく目指す「成功」が、決して、唯一絶対の生きる目標ではなく、成功しても幸せになれるとは限らないということです。**

**今、君たちがいる学校という狭い社会の中で見ている世界の外には、もっと、もっと、広い世界があります。学校のテストでは、どこまでいっても100点より上はありませんが、スポーツや音楽の世界、科学の世界でも、ビジネスの世界でも、社会には100点より上の領域があります。**

**さらに言えば、社会に「認めてもらえる力」をつけるのではなく、自分が人々の幸せのために社会を「変えていける力」をつけてほしいのです。**

**社会にどれだけ役に立つかということは、人として何を大事に思うか、何を大切にして生きるか、ということです。このことを一番真剣に考えるのが17歳の頃かなぁと思います。**

**教養・知識を高めていくことも大事ですが、多様な価値観に触れることで、言葉や文化を越えて、自分と異なる人を知ろうとする姿勢で自分の行動を変えていってほしいです。**

**今、自分がやっていることは、自分の価値観に基づくものなのか考えていくこと、自分の持つ世界観が明確であれば、世の中で起きる一つ一つの事柄に対する判断や選択に、迷うことはないはずです。**

**親でも他人でもない自分自身の価値観、自分の世界観を作り上げ、自分の人生を生きてください。**

**・・・・これまで、東日本大震災を始めとし、多くの災害や事故、病気などにより　たくさんの失われた命があります。**

**生まれてくることの出来なかった命や、「身近で亡くなった命」があります。皆さんがこの世に生を受け、こうしてこれまで立派に育ったことの奇跡を大切にしてください。**

**そして、この与えられた命を生かして、これからの社会を担っていく人材となられることを願っています。**

**（この後に続く、保護者への謝辞等は略します）**

**さあ、卒業生の皆さん、**
**いよいよ、新たなステージへのスタートです。**
**どうか「健康」に気を付けて、一人ひとりが自分のかけがえのない「命」を輝かせながら、**
**「前に」、「前に」進んでいってください。**

**「卒業　おめでとう」　　そして、「ありがとう」　　「元気でね」**

# 「お別れのことば」

だんだんと吹く風が温かくなり、厳しかった冬の寒さも和らいで、春の訪れの近さを感じるようになりました。このような良き日の今日、僕たち298名はこの万騎が原中学校を卒業します。

思い返せば3年間、様々なことがありました。3年前の春、僕たちはこの学校に入学しました。初めての仲間との行事は、自然教室でした。入学してすぐの自然教室。やはり、不安はありました。まだ仲間になって日が浅いクラスメイト。そんな人たちと楽しく過ごせるのかなと心配になりました。そんな中、迎えた1日目の夜。小さいテレビをクラスメイトで囲みました。テレビから流れてくる一つ一つのシーンに一緒になって盛り上がりました。自分にとってその出来事は、これからへの不安を吹き飛ばしてくれました。2年生に進級して、学校行事に力を入れるようになりました。万騎中と言えば、「桐花祭」。クラスで選ばれたのは、『野生の馬』という聞いたこともない歌でした。僕はパートリーダーだったので、何度も何度も聞いて練習しました。そして、迎えた本番。やはり、とても緊張しました。歌う直前、指揮者の人が担任の先生から手紙を受け取り、広げました。そこには、クラスメイトにはわかる「やりますねぇ」という言葉が。それを見て、僕たちは笑ってしまい、緊張が解けて、普段通り歌うことができました。順位は、残念ながら2位でしたが、よい思い出です。

2年生も残りわずかになってきたときにいきなり訪れた休校。一体いつまで続くのか。時間はあるけど、やりたいことが

ない。やれることもない。一体何をすればいいのかわからず、不安でした。また、生徒会長となって、頑張ろうとしていた僕にとって、休校期間は、悪い意味で、学校をぶっ壊してしまったかのようで、辛かったです。そんな中、迎えた4月の進級、僕は、最高学年になった自覚がありませんでした。そして、クラスが新しくなった感覚もありませんでした。2か月後の6月になり、ようやく学校が始まりましたが、マスクを付けなければならなくなりました。全員がマスクをしているので、相手の表情が見えず、自分の気持ちも相手の気持ちも伝わりにくくなりました。中学校生活最後の年、そして受験生の年は、不安だらけでスタートしました。

行事がつぶれていく中、修学旅行も日帰りになってしまいました。自分としては、夜布団を敷いた部屋でクラスメイトと話をしたかったので、残念でした。そんな修学旅行でもうれしかったことはありました。それは、地主神社で大吉を引いたことです。そこには、近いうちに素晴らしい人に出会えると、書かれていました。しかしながら、いまだに素晴らしい人に出会えないので、高校での出会いを期待しています。

行事が無くなったり、生活も嫌なことが多かったりした中、楽しいこともありました。それは、「スポーツフェスティバル」です。僕たち1組は、他のクラスに負けない団結力を出しました。例えば、リレーでだれかがミスをしてもそれを笑いに変えることもできる最高のクラスです。

受験も終わり、いよいよ卒業式が近くなりました。思い返せば、この3年間はあっという間でした。今年度もコロナの影響で、マスクをつけ、返事無しの卒業式にはなりましたが、マスクを外して一人ひとり証書を受け取っている姿を家族に見てもらうことができました。そんな家族へ。夜遅くまで洗濯をしてくれた。朝早く起きて、お弁当を作ってくれた。そして、誰よりも応援してくれた。何より中学校を立派に卒業し、新たな人生を歩み出す今日この日まで、僕たちを守り育ててくれた。僕たちは、多くの場面で、助けられてきました。普段、面と向かって言うことはないけど、本当にありがとう。そして、先生方へ。3年間、本当にお世話になりました。僕は中学校に入って、初めて尊敬できる先生に出会うことができました。僕のことを認めてくれる、互いに信頼し合える先生に出会うことができました。僕たちは先生方にたくさん助けてもらいました。でも、この恩を僕たちはまだ返せていません。僕たち卒業生ができる最大の恩返しは、そのいただいた恩恵に応え、自らの人生を自らの手で、立派に歩み出していくことだと思います。僕たちには、未来が待っています。例え未来に深い崖や高い壁があったとしても、僕たちが止まらない限り、その先に道が続くはずです。「とまるんじゃねぇぞ！」あらゆる気持ちを振り切って、僕たちは、前へ進み続けることを誓います。万騎が原中学校で得た経験、得た志を糧として、これからの人生を切り開いていくことを誓います。生きる力を胸に、責任ある人生を歩み続けることを誓います。

3年生のみんなへ、みんなとすごした3年間は、本当に楽しかったです。時には、一緒にふざけたり、そして、怒られたり、そんな日々は、僕たちにとってかけがえのないものでした。例え、今日までの日々が記憶から流れ去ったとしても、万騎中で過ごした日々は、僕たちの背中を押し続けてくれます。万騎中に来て本当に良かった。涙をこらえてお別れです。3年間、本当にありがとうございました。

最後になりますが、今日という日が皆さんの心にいつまでも残り続けることを願い、お別れの言葉とさせていただきます。

令和3年3月11日

横浜市立万騎が原中学校

第60回　卒業生代表

**お知らせ**

吹奏楽部の定期演奏会においては、例年地域の方々へも案内を差し上げておりますが、本年度は、新型コロナウイルス感染症感染予防のため、３月２６日（金）に生徒、保護者、職員のみで、開催させていただきます。ご理解、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。